



## 「父の詫び状」

向田 邦子著

筆者については、子供の頃に見たテレビドラマ「寺内貫太郎一家」の脚本家として知ってはいましたが、文章を読むのは初めてでした。本書は「父の詫び状」他23編が綴られているエッセー集です。冒頭のエッセーを読んで驚きました。なんて、生き生きとした、そしてどこにもある（あったかもしれない）風景が、格好付けずに描かれているんだろう・・・と。読み進むほどに、クスツと思わず笑ってしまったり、鼻の奥にツンとくるようななど・・・共感を覚えるところが沢山ありました。

昭和4年生まれの筆者とは40歳近く歳が離れており、戦前、戦中、戦後と筆者の過ごした時代と私の状況は違いますが、筆者の父母、兄弟、友達との話が、私の幼い頃の思い出と重なっていききました。父親が厳しかったこと、時には母が父の機嫌を伺いながら子供に接していたことなどが思い起こされました。さらに鍵っ子だった私は、誰もいない静まり返った家に帰るのが嫌だったこと、長期出張や単身赴任していた父親が休日を終え、赴任先に帰ってしまう時に、スツと部屋に閉じ籠もってしまった事、今でもあまり思い出したくないことが、次から次へと鮮やかに蘇ってしまいました。一方で、カレーライスやアイスクリーム、遠足のお八つなど、食べ物を通して子供の頃感じたことが大人の目線で描かれていて面白かったです。本誌を通して、子供の頃に思いを馳せながらも、今の自分を振り返るきっかけになりました。

CY



文春文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞